

青葉区民文化センター フィリアホール
令和6年度(2024年度)事業計画

東急コミュニティー・神奈川共立・横浜市民施設協会共同事業体



◎第3期の青葉区民文化センターがめざすもの

上質な文化を発信する拠点としての「フィリアホール」と、地域の文化施設としての「青葉区民文化センター」の両輪での役割は変わりません。文化事業・地域事業・施設運営の各業務はともに強力で連携し、「地域を音楽でつなぐ」活動を通じた地域基盤の醸成・人材育成に注力し、施設運営面でも活動する市民団体や個人への支援応援という側面を模索します。提案に掲げている「"ひと"と"まち"の未来へー文化でつなぐステーション」というビジョンスローガンのもと、地域文化を醸成する一拠点として、青葉区民文化センターは積極的な役割を様々な面で展開します。本施設の活動が、さらにその先の人々の繋がりの一助となり、その先にも分岐して様々な広がりが生まれることを期待します。

第3期の各使命と具体的な事業計画との連携確認

第3期における1～6の各使命の具体的な事業計画では、文化事業・地域事業・施設運営・施設管理の各事業が、相互に連携協働し、各々の事業範囲の中で、関連する使命の達成に向けた役割を担います。事業計画においては、各事業毎に計画を立て、その中での各業務と各使命との連動を表記していきます。

◎各使命の遂行の具現化

●使命1:文化芸術の活動と体験の場となる

・文化芸術に関する活動と体験の場を提供することで、市民の活動を支援

使命1を達成する中心となるのは施設運営業務です。本施設が、日ごろの成果を発表する場、日々の練習など、文化活動の場としてご利用いただくため、「利用者ファースト」の対応を行います。利用者の活動を、技術サポート、広報支援等を通じて支援していきます。地域の活動支援として、地域事業における企画イベントや、施設外拠点での活動のコーディネーター役を担います。地域の施設とのネットワークを生かし、様々な拠点でも活動が展開できるための支援を行っていきます。活動支援の観点から、文化事業・施設運営・地域事業の各担当の総合作業として、アーティストデータベースの構築を行い、市民団体や個人の活動の支援ができるようにしていきます。

●使命2:文化芸術活動を担う人材を育む

・地域で文化活動に興味を持ち、活動を主導する人材を増やし、地域住民の文化芸術活動の可能性を拡充

使命2の実現のために、文化事業と地域事業の連携で「文化活動に興味関心を高めるための体験・鑑賞機会」創出を図り、そこから本格的な「高水準なアーティスト・地域の音楽家の育成」そして「文化事業を企画し、支えるべく地域の人材育成」を進めます。区民企画やアウトリーチ企画を通じて、地域の活動家や地域の企画の醸成を担い、また区民サポーターなど各企画に協力する人材育成にも努めます。

●使命3:文化芸術の鑑賞の機会を提供する

・音楽を中心とした質の高い文化芸術に触れる機会を提供し、感性豊かで多様な価値観を受け入れる区民文化醸成に貢献

使命3は、文化事業による鑑賞機会の提供を中心として達成を目指します。横浜市内さらには国内外を代表する音楽ホールとして、世界的に見てもクラシック音楽の上演劇場として非常に高水準な音響を実現できるフィリアホールの名に相応しい、高品質な音楽芸術鑑賞機会を提供するとともに、音楽に親しみのない方も含む多くの方々が無難に参加し、楽しみ、体感できる企画も並行して開催します。ホールとアーティストが連携した若手育成プログラムの企画など、新規育成・教育事業にも取り組みます。

●使命4:幅広い人を受け入れ、地域を結びつける

・社会的包摂を踏まえた利用者本位の運営。文化施設としての役割と専門性をふまえ、地域コミュニティのベースとなる文化的 commons の形成に寄与

使命4は、地域事業の分野を中心に実現を目指します。これまで築いてきた地域とのネットワークをさらに拡充していくために、新たなネットワークを開拓し、地域コミュニティ・地域の文化的 commons 形成をめざします。第3期も地域をつなげることをビジョンに掲げる中で、本施設内での企画、外部拠点へのアウトリーチ、また区制30周年である令和6年度には地域全体を巻き込む企画展開などを考えます。加えて、施設運営の分野でも社会的包摂を意識し、(ハード面での課題を除き)あらゆる人が足を運んでいただける工夫を行います。

●使命5:持続可能性を高める施設運営を行う

・保守/点検や予防的修繕などの維持管理、安全快適な施設維持。効率的経費執行や収入増により、安定的施設運営

使命5は、施設管理部門を中心として実現を目指します。何よりも施設運営における最低限の前提である、安全・安心でホスピタリティを提供できる施設を目指し、日常点検保守、小破修繕などを効率的に連携させ、施設維持管理業務を推進します。劣化の進む施設設備に対しては、市及び区とも協議し、大きなトラブルになる前の事前の更新工事を進めるようにし、必要な計画立案を行います。予防保全の徹底、適切な修繕を励行し、適切な収支による運営管理を行います。

●使命6:不測の事態(新型コロナウイルス感染症等)の影響を想定し、施設運営を継続する

・感染防止対策の下、各業務を実施し、市民活動基盤となる施設運営を継続。その他感染症や不測の事態でも適切な対策により、継続して利用できる施設運営継続

使命6はすべての部門が共同して対応し、不測の事態下でも継続して安心して施設利用ができ、文化事業の開催ができる体制を整えます。疾病のほか特に防災に関するマニュアルを見直し、対応力を強化していきます。

●総合的な運営管理の使命

第3期の運営方針として、8つの方針を掲げました。①公正公平平等な施設管理、②安全かつ適正な維持管理、③適正かつ健全な収支構造、④円滑な業務執行体制、⑤危機管理の徹底、⑥地域とのネットワーク構築、⑦個人情報保護、⑧地域への還元。指定管理料を中心に、利用料収入・自主事業収入による収入と必要な支出の適正化を図り、協賛金等の外部収入も模索していきます。物価やエネルギー単価高騰などの社会背景の中で、削減できるもの等の見直しを行いながら、安定した収支構造が保てるようにしていきます。管理運営と事業企画の各々に精通した必要スタッフ要員を配置し、機動的かつ風通しの良いフラットな組織で運営し、サービス向上や新たなノウハウによる、様々な新規の活動展開ができる土壌を生み出していきます。



◎第3期2年度目 令和6年(2024年)の青葉区民文化センターがめざすもの

令和6年(2023年)は、第3期2年度目にあたります。引き続き当期の基本ビジョンと各使命の目標を踏まえつつ、更なる事業充実と使命達成への活動充実促進を行います。令和6年は青葉区制30周年の年にあたり、ホールでの自主事業では、同周年を冠に掲げた自主事業(コンサート)および地域の地区センター等と連携した地域企画を実施します。地域事業は、第3期1年度目の実績を踏まえ、より意義のある活動となるよう、文化事業担当や地域施設との連携を強化し、ブラッシュアップした企画を実施していきます。施設運営では、利用促進のための方策を引き続き検討し、より多くの方の利用促進を図り、また利用者の利用満足度向上により意識した施策を行います。引き続き経年劣化の進む各種機器類の維持管理を綿密に行い、改修による延命、不測のトラブル回避を図ります。全体を通して費用管理に努め、高騰する光熱費とのバランスを取っていきます。

第3期令和6年(2024年)の各事業計画の基本方針(…以下は各使命との関連) 詳細は各事業計画にて

●文化事業…使命1・2・3の達成に向けて

令和6年(2024年)の文化事業も、引き続き上質なクラシックコンサートを中心とした「コンサート・シリーズ」と、気軽に参加でき楽しめる音楽体験および学びを主眼に置いた「エデュケーション&コミュニティ(E&C)・プログラム」の2軸で展開します。「コンサート・シリーズ」は、昨年改訂したシリーズ構成を踏まえて実施するとともに、マスタークラスと連携させた企画、地域のアーティストが出演する企画など、新機軸の企画も開催します。E&Cでも、地域の各コミュニティにより詳細に目を向け、つながりを強く意識した視点を取り入れた展開を行います。ミュージックアカデミー・プログラム等では「人材育成や音楽家育成」の視点を多く取り入れ、継続する「フィリアホール室内楽アカデミア」の展開に加えて、マスタークラスやレクチャーコンサートの開催を実施します。

●地域事業…使命1・2・3・4の達成に向けて

令和6年(2024年)の地域事業は、基本ビジョンに示した「ステーション施設」となり、使命4の「文化的コモンズ形成」への寄与を中心にした活動をさらに深めて展開します。新たなネットワークの開発に積極的に取り組み、地域施設や地域の人々を幅広く取り入れるための活動を展開していきます。文化事業と施設運営の分野を密接に連携し、本施設を中心に、あらゆる施設や場所に音楽を届けるため、地域の施設へのアウトリーチ活動のさらなる充実と質の向上を図ります。区民企画や各施設での企画実施を通じて、文化事業を担う地域の人材育成にも重点を置き、人たちと協働して企画の展開、事業の拡充を図ります。

●施設運営…使命1・4・5・6の達成に向けて

令和6年(2024年)の施設運営でも、引き続き「公平・平等」の「利用者ファースト」を基礎においた活動を行います。新予約システム関連対応として、今後開始予定のWeb上決済等について、利用者への説明・各種システム対応を進めます。引き続き各施設の安定した高稼働維持を目標とします。利用を通じた打合せや本番のサポートを通して、地域の人達のイベント企画運営のノウハウ・知識向上・習熟・育成につながる取り組みを行います。施設を利用する団体・個人との連携をさらに深め、地域文化向上に協働して取組むためのデータベース構築、活動支援の基盤づくりを本格的に進めます。

●施設管理…使命5・6の達成に向けて

令和6年(2024年)の施設管理業務は、引き続き各事業が円滑かつ効果的に実行に移せるように、施設の保守保全、効率的運営推進を進めます。安心・安全・快適な施設環境の維持と向上のため、各種設備や各種機器類の改修更新、機能向上を、長期的視野に立って進めていきます。SDGsの取り組みや環境整備、収益体制の確立により、各事業の展開基盤を作ります。組織内では館長と施設管理責任者の新選任など、新体制による組織と要員の連携強化を図ります。

●令和6年(2024年)での新たなノウハウやサービス向上

第3期提案では、新たな施設活性化への取組として、利用促進・利用継続・広報活動の3分野での提案をしています。令和6年(2024年)では、予約システム変更に関連してチケットサービスのキャッシュレス・電子マネー対応を拡大、広報や情報収集という面では、LINEなど新規SNS稼働やWEB等の利用促進と、高齢者等を想定したアナログなサービスとの両立を図り、「すべての人」に伝わる広報の仕方を引き続き進めていきます。

●「第3期2年度目の事業計画全体方針」

前年度に引き続き、提案に掲げた「文化発信」「人材育成」「地域活性化」といった諸課題に対して、一つ一つ結果を出していける地道な取り組みを重視していきます。令和6年は特に青葉区制30周年に向けた取り組みを展開し、「地域活性化」「地域コミュニティ」をより意識した30周年企画の実現を目指します。各使命の達成に向け、各事業を安定して展開していく基礎を作り、その中から提案してきた項目を着実に一つ一つ具現化し、実行し、その成果を広く区民、市民に広げていくようにしていきます。



I. 第3期の文化事業の基本方針

1. 文化事業活動の基本方針

第3期の文化事業の基本は、使命3の「文化芸術鑑賞の機会提供」です。フィリアホールが発信する高品質な文化の発信は、地域事業とも連携し、地域の人々に上質な音楽を届けていく事業を展開します。使命2の「人材育成」に関連した企画も展開していきます。第3期文化事業も、優れたコンサートを発信する「コンサート・シリーズ」と地域との連携や人材育成を重視した「エデュケーション&コミュニティ・プログラム」の2軸での展開を図ります。

2. 第3期の「コンサートシリーズ」構成

多数のコンサートシリーズが乱立していた状況を見直し、「(土曜ソワレ)女神との出逢い」(JUST ONE WORLD)ただ一つの世界」「(マイ・フィールド)私の人生、私の音楽」「(土曜ティータイム)音楽のある風景」「フィリア・ハイムコンツェルトシリーズ」の5シリーズは2023年5月をもって発展的解消し、第3期からは新たに「土曜マチネシリーズ」「ランチタイム・コンサート・シリーズ」「神奈川フィルの名手による室内楽シリーズ」の3シリーズを主軸として展開します。

また、ホールの音響に最も相応しい「室内楽」分野に特化した「山崎伸子プロデュース 輝く若手演奏家による『未来に繋ぐ室内楽』」、東京音楽大学との連携で実現している貴重な指揮科公開授業「マエストロの白熱教室」も、アーティストを軸とした「アーティスト・プロデュース・シリーズ」として、年1回の恒常開催シリーズに位置付けていきます。さらに開館以来全国各地から集客している海外アーティスト招聘公演、年度ごとに特色あるコンサートは、シリーズの枠に収められない単独での開催も積極的に行うほか、第3期5年間通じての特別企画として「日本におけるクラシック音楽発祥の地・横浜」の歴史を音楽とトークでたどる特別シリーズ「横浜音楽物語」を引き続き展開します。

3. 第3期の「エデュケーション&コミュニティ」の構成

第3期のエデュケーション&コミュニティ(E&C)・プログラムの展開は、第2期に続いて、「キッズ&ファミリー」「ミュージックアカデミー」「地域コミュニティ」の3プログラムを軸に構成します。

「キッズ&ファミリー・プログラム」は、夏・冬のファミリーコンサートや、幼児向けのコンサートやワークショップを展開します。誰もが楽しく音楽に触れあえ、そして癒される時間を提供していきます。

「地域コミュニティ・プログラム」では、ロビーコンサートやオープンデーといった形で、気軽な音楽体験や楽しみの醸成を図ります。あらゆる人々を受け入れる企画を提案し、音楽を通して地域の方たちが集える空間を目指します。

「ミュージックアカデミー・プログラム」は、「人材育成」という視点を重視し、今までのラインナップを踏襲しながら、引き続きマスタークラスやレクチャーコンサートなどを重視した企画を実施していきます。中高校生、地域の音楽家そしてプロを目指す若手のための様々な企画を提供していきます。

II. 令和6年(2024年)の文化事業計画

1. 令和6年(2024年)のコンサートシリーズ展開

●「土曜マチネシリーズ」

開館以来300回にわたり長期支持を得ていた、土曜ソワレシリーズ《女神との出逢い》の後継として行う、フィリアホールコンサートの中心シリーズです。公演時間が夕方(ソワレ)から、より足を運びやすい土曜14:00のマチネ公演に移行し、《女神》シリーズで取り上げにくかった男性アーティストの公演も積極的に取り上げ、国内アーティストをはじめとする幅広いアーティストが登場します。令和6年は8公演実施し、中堅～ベテランの高水準なシリーズ企画から、ホール初登場の気鋭の若手奏者まで取り上げ、フィリアホールの主軸となるコンサート展開を図ります。ラインナップの詳細は別途記載。

●「ランチタイム・コンサート・シリーズ」

従来好評を博していた《らん・らん・ランチにいい音楽》シリーズの後継シリーズ。引き続き平日昼でチケット料金1500円のコンセプトは変えず、多彩なジャンルで楽しさを感じられる内容にしていきます。「気軽さ」と「本格的クラシック」の両立を趣旨にした企画で、一流のクラシック音楽を気軽に体験し、興味を喚起する企画として展開します。

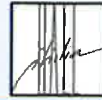
令和6年は6公演予定。引き続きデビュー間もない優れた若手アーティストに加え、今年度はベテラン指揮者によるピアノリサイタルなど変わり種の企画も開催。音楽の広がりを感じ体験してもらいたいと思います。ラインナップの詳細は別途記載。

●「神奈川フィルの名手による室内楽シリーズ」

神奈川県、横浜市を代表するプロオーケストラ・神奈川フィルハーモニー管弦楽団の首席奏者ほか精鋭たちによる室内楽シリーズ。毎回好評を博し、ホール主催公演・共催公演の各1回を実施します。首席ソロコンサートマスターの石田泰尚氏を含む精鋭による室内楽公演は、毎回新たな試みで名曲を披露し、フィリアホールの新たな発信の一翼を担っていただいています。

●シリーズ以外の単独企画

曜日や料金といったシリーズ特有の縛りにとらわれず、シリーズ展開ではなく、その年ごとに、話題性やテーマにそって、国内外のトップ・アーティストたちのコンサートをこれまで以上に柔軟に展開します。今年度はドイツを代表するヴァイオリニスト・イザベル・ファウストのバッハ無伴奏作品全曲演奏企画や、ニコラ・アルトシュテット(チェロ) & マクシム・エメリヤコフ(ピアノ)のデュオなど日本初の企画も実施し、一方でケルティック・コーラスなど異色の企画も。また恒例のニューイヤーコンサートは2本開催、気鋭の海外アーティストによる豪華公演を趣向を凝らして実施します。ラインナップの詳細は別途記載。



●第3期を通じた特別企画:「横濱音楽物語」

日本の西洋音楽の歴史において極めて重要な役割を果たした「横濱」という土地で何が起きたか、その歴史を、実際の演奏と共に知ってもらい、地域住民の文化的な関心を高めるとともに、横浜市の中心部から離れた青葉区だからこそできる、新たな「横濱」への文化的アイデンティティの醸成に寄与する企画として、年1回で5回(または6回)のシリーズ展開を行います。

第2回目は、近代を代表するロシアの作曲家プロコフィエフが来日した際に横浜でリサイタルを行ったときのプログラムを、横浜市在住のピアニスト・阪田知樹が再現するプログラムを予定。文化芸術プロデューサー浦久俊彦による関連講座、アフタートーク等、聴だけでなく学びになる企画を目指します。

●令和6年(2024年)の特別コンサート

◎青葉区制30周年記念コンサート／横浜市・青葉区在住アーティストによるコンサート

青葉区制30周年を記念し、青葉区内で育った、ソリストの他読売日本交響楽団首席チェリストとしても著名なチェリスト・遠藤真理のリサイタルを開催します。また、前年度に開催した、横浜市民施設協会との協働で、青葉区内の地区センター・コミュニティハウスと連携して実施するコンサート・シリーズ「四季をめぐるコンサート(仮)」を、区制30周年記念を軸に、さらに大規模に展開します。

今年度では遠藤真理のほか、藤井玲南(ソプラノ歌手・青葉区在住)、阪田知樹(ピアニスト・港北区在住)、東亮汰(ヴァイオリニスト・都筑区在住)など、全シリーズに渡り、横浜市・青葉区に縁あるアーティストが多数出演します。

◎マスタークラス／ワークショップと連携したコンサート

前年度に行った、アマチュアを含め愛好家が参加できるチェロ即興ワークショップ(講師:ジョヴァンニ・ソリマ&海野幹雄)、フルート&ピアノのマスタークラス(講師:岡田奏(ピアノ)&上野星矢(フルート))同様、「ミュージックアカデミー・プログラム」企画内のワークショップとの連携として、今年度はチャールズ・ナイディック(クラリネット)&パスカル・ドゥヴァイヨン(ピアノ)のマスタークラス、須川展也(サクソフォン)によるサクソフォン愛好家向け合奏ワークショップを行います。鑑賞と演奏の経験をスムーズに連携させ、より多くの音楽愛好家に足を運んでもらえる機会を提供します。

2. 令和5年(2023年)のエディケーション&コミュニティの展開

●キッズ&ファミリー・プログラム

「キッズ&ファミリー・プログラム」では、引き続き0才のお子様からファミリー層が楽しめる企画を実施します。入場可能年齢を0歳からに引下げた夏・冬のファミリーコンサートは、家族が一緒に楽しめるとともに、年齢層に合った内容にさらにブラッシュアップを図ります。また平日午前の開催で好評を博しているハワイで開催の「プチ・コンサート」は、これまで以上にバラエティ豊かなアーティストの出演を実現し、乳幼児と保護者の両方が楽しみ癒される企画を年2〜3回実施していきます。こうした企画では引き続き若手アーティストを積極的に起用し、活動支援の一環として、若手音楽家達に活動の場の提供を進めます。

●地域コミュニティ・プログラム

「地域コミュニティ・プログラム」では、音楽に関心がなかった方を含む、より多くの地域の方に足をお運びいただけるイベントにそれぞれブラッシュアップを図り、これまで以上に「地域密着」「社会的包摂」の視点を意識し、多くの方に青葉区民文化センターでの一日を楽しんでいただく企画を考えます。夏に開催する「オープンデー」はさらに集客向上を目指すとともに、来場者がホールや音楽のことを知り、充実した体験ができるよう、内容等を大きく見直します。またハワイで開催する「ロビーコンサート」は、昨年からのフラメンコなど従来にないジャンルの音楽分野も取り入れ、音楽に詳しくない地域の方でも気軽に足を運べ、国際交流といった分野にも貢献できる企画になるよう見直しを進めていきます。また地域コミュニティを考えた企画は、学校や福祉施設を含む施設や地域事業者との連携協働により、区民文化センター外での文化体験の機会創出も行います。

●ミュージックアカデミー・プログラム

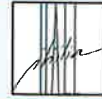
「ミュージックアカデミー・プログラム」は、引き続き第3期の使命でもある「人材の発掘・育成・支援」という観点を存分に取り入れた企画を展開していきます。従来からの継続している、国内を代表する指揮者・広上淳一氏の「マエストロの白熱教室」、チェリスト・山崎伸子氏の「未来に繋ぐ室内楽」の二本を継続実施するとともに、サクソフォン業界を代表する奏者・須川展也氏の音楽愛好家向け企画を開催します。若手音楽家の発掘育成を目的とする「フィリアホール室内楽アカデミア」も継続して開催、今年度は新たな人材発掘と共に、巣立った未来ある若手演奏家のコンサートも企画します。アカデミアの発展形として、今期より小中学生のピアニスト向けのマスタークラス&コンサートも、今年度は海外の講師を招いた質の高い企画として実施します。

3. 国内・地域で活動する優れた音楽団体との共催事業の実施

国内外の優れたアーティストによるリサイタル、地域のオーケストラ公演などを、共催公演として年間5〜10本程度実施します。従来のネットワークを生かし、ホール主催では実現が難しい、幅広いジャンルの文化芸術を提供します。貸館で実施してきた優良公演についても、これまでより積極的にサポートします。広報の販促等も積極的にを行い、従来以上に密な開催の促進を検討します。また地元根付いている各種音楽コンクールとの連携も強化し、協力事業として積極的に支援をし、若手の発掘に協力していきます。

4. 文化事業の安定化のための広報販促の充実・利便性向上

文化事業は、内容が素晴らしいという質的な面はもちろん、集客実績という量的実績の達成も非常に重要な業務と認識しています。事業収入を安定的に確保し、より多くの区民に鑑賞していただくためにも、広報活動は重要な業務と認識しています。新たに登場するSNSやWEB広告をはじめ、紙媒体の効率的な利用、Webサイトのブラッシュアップ、区広報誌、タウン誌や音楽専門誌の広報活用など、様々な方法で情報を届けます。現状のX(旧Twitter)に加え、LINEなど新たなSNS販促も検討し実施します。またチケット販売においてクレジットカードの利用拡大、キャッシュレス・電子マネー対応化にも取り組みます。昨年度から設定した、学生券に代わり若い方たちをターゲットにした割安チケット「U25」についてもより周知を進めていき、高齢者、障がい者に配慮した販売方法や告知方法も併せて充実させます。



◎令和6年度(2024年度)コンサート予定ラインナップ

土曜マチネシリーズ
郷古 廉&北村 朋幹 ヴァイオリン&ピアノ デュオ・リサイタル／小林 愛実 ピアノ・リサイタル／周防 亮介 無伴奏ヴァイオリン・リサイタル／河村 尚子 ピアノ・リサイタル／遠藤 真理 チェロ・リサイタル(青葉区制30周年記念公演)／須川 展也 サクソフォン・リサイタル／仲道 郁代&ウェールズ弦楽四重奏団ピアノ五重奏曲プロジェクト(第2回)／小林 沙羅 & 福間 洸太朗 ドイツリート企画(第2回)
ランチタイム・コンサート・シリーズ
吉田 志門 テノール／上岡 敏之 ピアノ／藤井 玲南 ソプラノ／徳永 真一朗 ギター／坂本 彩 & 坂本 里サ ピアノ・デュオ／東亮 汰 ヴァイオリン
神奈川フィルの名手による室内楽シリーズ
「フォーレ&ショーン フランス室内楽の名曲」※石田 泰尚氏出演
シリーズ以外の単独企画
マチェイ・スクシエチュコフスキ チェンバロ・リサイタル／イザベル・ファウスト J.S.バッハ無伴奏ヴァイオリン作品全曲演奏会／フランチェスコ・トリスターノ ピアノ・リサイタル／マルシン・ディラ ギター・リサイタル／ニコラ・アルトシュテット & マクシム・エメリヤニチェフ チェロ&ピアノ／シュテファン・デミング & マルグレート・ケール リコーダー&バロックハーブ／チャールズ・ナイディック & パスカル・ドゥヴァイヨン クラリネット&ピアノ／アーナ・イブラギモヴァ & セドリック・ティベルギアン ヴァイオリン&ピアノ
ニューイヤー・コンサート
ジュスタン・テイラー フォルテピアノ・リサイタル／森 麻季 & イル・ポモ・ドーロ
横濱音楽物語
横濱音楽物語 第2回 ナビゲーター: 浦久 俊彦 演奏: 阪田 知樹(ピアノ)
青葉区制30周年記念コンサート
遠藤 真理 チェロ・リサイタル(「土曜マチネシリーズ」同時開催)
エデュケーション&コミュニティ・プログラム
・山崎 伸子 プロデュース「未来に繋ぐ室内楽」Vol.8 クアルテット・フェリーチェ & カルテット・プリマヴェーラ
・「マエストロの白熱教室2024」指揮者・広上 淳一の音楽道場
・フィリアホール室内楽アカデミア: 修了生コンサート「アカデミア・コンサート2025」
・クラリネット&ピアノを学ぶ学生向けマスタークラス(講師: チャールズ・ナイディック(クラリネット) / パスカル・ドゥヴァイヨン(ピアノ))
・サクソフォン愛好家による合奏ワークショップ(講師: 須川 展也(サクソフォン))
・夏・冬のファミリーコンサート・プチコンサート／ロビーコンサート／ワークショップ

◎令和6年(2024年)文化事業の収益予想

コンサート・シリーズ			
公演(シリーズ)名	開催想定概要	令和6年(2024年)実施想定	年間収支(税抜千円)
土曜マチネシリーズ	原則 土曜 午後	4・7・8・9・11・1・2・3の各月予定	収入 12,482
	2時間・休憩あり		支出 9,102
ランチタイム・コンサート・シリーズ	平日 昼	7・9・10・11・2・3の各月予定	収入 2,811
	1時間・休憩なし		支出 3,024
神奈川フィルの名手による室内楽	企画時設定	自主5月・共催で9月実施予定	収入 1,082
	(共催でも実施)		支出 1,015
シリーズ外特別企画	企画時設定	4・6・7・9・10・11の各月予定	収入 19,597
			支出 19,605
ニューイヤーコンサート	新年1月中	1月予定	収入 4,676
			支出 5,277
横濱音楽物語	企画時設定	10月予定	収入 1,828
	年1回		支出 1,390
青葉区制30周年記念公演	企画時設定	11・3の各月予定 (11月公演は「土曜マチネ」と兼ねる)	収入 1,672
	年2回		支出 1,069
エデュケーション&コミュニティ・プログラム			
公演(シリーズ)名	開催想定概要	令和6年(2024年)実施想定	年間収支(税抜千円)
ミュージックアカデミー・プログラム	企画時設定	6・10・11・1・3の各月予定	収入 3,153
			支出 4,123
キッズ&ファミリー・プログラム	企画時設定	ファミリー8・12各月・プチコンサート等適宜	収入 899
			支出 1,614
地域コミュニティ・プログラム	企画時設定	適宜	収入 113
			支出 446
アウトリーチ・プログラム	企画時設定	適宜	収入 333
			支出 480
フィリアホール共催公演	令和6年(2024年)予定ラインナップ ()内数字は想定実施月		
共催コンサート	横浜シンフォニエッタ(6)／アナ・ヴィドヴィチ(ギター)(7)／パオロ・パンドルフォ(ヴィオラ・ダ・ガンバ)(8)／ピアノの森コンサート(出演: 高木 竜馬(Pf)(8)／サラ・トラウベル(ソプラノ)(12)／イーケ・トニー・ヤン(12)・神奈川フィルの名手による室内楽シリーズ(9)／Concert for KIDS(3)		
マスタークラス・コンクール	国際音楽祭NIPPON諏訪内晶子マスタークラス		
その他協力公演	かながわ音楽コンクール予選・本選会／フレッシュ横浜音楽コンクール		
	TSUKEMEN／フィリア・ジュニア合唱団(共催)		



I. 第3期の地域事業活動の基本方針

1. 地域事業活動の基本方針

第3期の地域事業は、使命4の達成を中心とします。社会的包摂を意識し、地域文化施設の専門性を踏まえた地域コミュニティ形成・地域コモンズ形成に寄与していきます。第2期でのつながりを発展拡大させ、地域の拠点や区役所と情報・意見交換を行いながら、青葉区全体がフィールドとなり、活動拠点を更に拡げていきます。多様なニーズに対応できる信頼関係を構築させ、より発展させていくことを目指します。青葉区民文化センターが、地域人材との協働事業を推進する一方で、新たな人材育成や地域での活動を模索する音楽家たちとも連携し、育成支援していきます。

◎地域事業の展開は、前述の通り「多様なニーズ」に対応していくことが基本であり、社会的包摂の意味を考えて、実施するコンサートやアウトリーチの数をやみくもに増やすのではなく、一つ一つの事業を「意味ある」形で開催することが大切と考えます。社会的包摂(ソーシャルインクルージョン)は、参加する人々が相互にエンパワーメントを得られる事業だと認識しており、その基本的活動の軸足を確かめながら着実に実施していきます。

2. 地域事業活動と他の事業分野の連携強化

第3期は、組織体制として、館長が事業総括責任を担当し、文化事業はもちろん、地域事業や施設利用での活動支援などの文化的事業の全体を俯瞰し、相互に連携を強化させる体制を強化します。これにより、専門性が高い文化的事業のフィリアホールの音楽を地域に連携させ、市民の活動を地域に結び付ける支援策も実施していきます。

3. 地域コーディネーターの役割

専任で配置する地域コーディネーターは、文化事業コーディネーターや施設管理責任者と協力し、地域における「青葉区民文化センターの顔」として、地域に根差した活動を行います。地域の情報や課題にアンテナを張り、幅広い人と会話することで、求められていることを把握します。連携先との繋がりを構築し、各施設の特色を生かした事業を企画することで、更なる魅力を引き出し、「地域の事業」として発展させていきます。

II. 令和6年(2024年)の地域事業活動

1. 文化事業と連動する活動

●エデュケーション&コミュニティ・プログラムとの関連事業

文化事業のE&Cの中でも特に「キッズ&ファミリー」と「地域コミュニティ」の2分野を主に担当します。ファミリーや幼児向けのプログラムは、対象年齢や内容を吟味し、参加して楽しめる企画を実施します。ワークショップやミニコンサートは、内容を吟味し、参加していただく方が充実した体験ができ、癒される時間を提供していきます。高品質なホールと地域の文化拠点という「二つの顔」が、ともに互いの力を発揮し、連携しあふ事業活動だといえます。

●地域の子どもたち・ファミリー層に向けた活動

企画	時期	企画概要及び計画概要
夏のファミリーコンサート	8月	入場対象を0歳まで引き下げ、家族全員で参加できることを意識しながら、「プチ・コンサート」よりもやや高い年齢層(3才~小学生まで)を想定して、1日2回公演で、対象年齢に沿った内容構成を検討します。若手演奏家の活用、年齢以外の社会的包摂も意識していきます。
クリスマス/ウィンターコンサート	12月	

●0歳からの乳幼児・子供たち、そして子育て世代層に向けた活動

企画	時期	企画概要及び計画概要
プチコンサート ・ワークショップ	年3回程度	ホワイエというフラットな空間で、乳幼児と保護者が気軽に楽しみ、子育てに忙しい保護者にひと時の癒しを届ける企画です。対象年齢ごとに内容を変化させ、吟味、改良を重ねて、より楽しめる企画にします。夏には別途子どもたちが参加できる新たな企画を検討します。

●地域の人達に向けた活動

企画	時期	企画概要及び計画概要
オープンデー	8月	施設全てを案内し、コンサートホール、音楽について知って体験するお祭りイベント「オープンデー」は、さらなる集客向上と内容のブラッシュアップを図ります。地域住民により気軽に音楽に触れる機会を意図する「ロビーコンサート」も、内容の見直しを図り、より多くの皆様に足を運んでいただける内容を検討します。
ロビーコンサート	年2回程度	

2. 市民協働促進に向けた活動

●市民協働促進に向けた活動

市民協働の活動により潜在的ニーズが顕在化し、知恵やネットワークにより新たな事業が生まれます。企画に参加する人材の育成に取り組み、地域活性化と次世代へ継承する役割を醸成します。誰もが参加できる企画を協働で実施します。地域の人達自らが「地域コーディネーター」となれるよう、密度の高いコミュニケーションと育成に力をいれます。

●市民協働型の区民企画の実施

企画	時期	企画概要及び計画概要
区民企画公募・選定・協力実施	通年	第3期も区民企画も公募し、「区民による区民の事業」を発掘、バックアップすることで共に成長を目指します。地域課題の解決に繋がる企画案を募集し、本施設とともに協働して事業化し、区民企画者には、企画運営に必要な専門知識やノウハウを享受し、事業を継続して遂行できる人材育成を行います。



●市民企画と施設の共同主催による「あおばカノン」

令和4年度(2022年度)には市の文化助成金事業として認められたイベントです。今年度は引き続き、音楽と美術を融合した事業を社会福祉協議会や地域ケアプラザ、支援学校と協働し、障がいやハンディキャップのある方が手掛けた絵画や作品を音楽と絡めながら地域へ発信していく、といった内容はそのままに、コンサート部分等のさらなる内容向上、効率的な運営方針等を検討します。

●市民協働・人財育成に向けた活動

演奏家向けの講座開設	地域の演奏事業に力を入れたい演奏家向けに、地域施設の特色や、障がい、育児、介護者の当事者の声を聞く時間や、専門的な音楽ワークショップを学ぶ場などを提供していきます。
区民サポーターの育成	地域のサポーターとしての誇りや自信を持ちながら活動をしていく上で必要な知識や意識してほしい分野を学ぶ場を提供します。
ジュニア合唱団	・「区民企画」から生まれた「フィリア・ジュニア合唱団」は、運営委員制度に移行し、市民主体の運営により子ども達の育成を目指すため、本施設は引き続き支援・サポートを行います。
音楽家の活動の場支援	音楽家を地域の施設や団体へ繋げ、相互の活動へつなげていくコーディネートを行います。

3. 地域連携・地域コミュニティ形成に向けた活動

●地域連携・アウトリーチ活動

地域の様々な施設や団体と連携協力していきます。横浜市のプラットフォーム事業を通じた小中学校への演奏者派遣アウトリーチはもちろん、それ以外の様々な場所に積極的に出向く活動を展開します。町内会、商店街、企業、個人、地域の施設、団体より希望があれば演奏家を紹介します。ホールまで来ることが出来ない地域の方に生の音楽を届けます。福祉施設や団体と協働したアート活動、地域施設との交流を踏まえた地域課題にアプローチをする活動を行っていきます。

新たに広げたいネットワーク先

国際交流ラウンジ／自治会商店街／中高大学(青葉六大学)

◎令和5年(2023年)の主要な企画

・学校連携アウトリーチ

学校連携		
横浜市芸術文化教育プラットフォームアウトリーチ	下期	事務局のSTスポットとの連携事業(学校対象)。学校と連携し、アーティストと学校を繋げ、「何を子供たちに伝えるのか」という基本を共有したうえで、実りある時を過ごせるようにします。
その他の学校・福祉施設		プラットフォーム事業の補助対象外の学校でもアウトリーチを実施しており、今年度も要望を聞きながら、多くの学校へのアウトリーチを検討します。あおば支援学校や各学校の特別支援学級など、障がいをもつ子どもたちの場所にも音楽を届ける活動を強化します。

・地域施設連携アウトリーチ

地区センター連携	適宜	地区センターやコミュニティハウス等と連携では、今まで様々な「場＝拠点」に音楽を届けることができ、コンサート開催は多くの人と触れ合い、新たな繋がりを構築できました。これからも地域の音楽家や若手音楽家とも連携し、気軽に「上質な音楽」に触れる機会の提供を実現させていきます。
ケアプラザ等連携	適宜	全施設との連携の基盤はできており、今後も内容を検討吟味しながら、発展させていきます。各施設の企画を青葉区民文化センターで実施するという方法でも連携を進めます。



I. 第3期の施設運営活動の基本方針

1. 施設運営活動の基本方針

第3期の施設運営は、使命1の達成を中心とします。青葉区民文化センターは、地元で演奏活動を行う演奏家はもちろん、アマチュアの音楽愛好家や音楽を学ぶ学生が日々の練習・日頃の成果を発表する場であり、地域の人々が集える場として、常に利用者ファーストの対応を心掛け、最善のパフォーマンスを発揮できる環境を整えます。今期は、施設利用の促進からさらに踏み込み、施設を利用する地域の団体やアーティストに、地域の様々な施設における「活動拠点」としての場を提供する役割も果たすべく、地域ネットワークを通じて団体・個人が活動範囲を広げられる支援を行い、本施設が地域拠点及び団体・個人とを媒介するコーディネーター役を務めます。今期の最終目標として、演奏家や団体のデータベースを構築し、誰もが閲覧できる環境を整えることで、市民・アーティストの活動を支援していきます。

2. 施設運営活動と各使命との連動

第3期では、本施設の利用促進・利用満足度の向上、という基本軸に加えて、「地域施設での場の提供」「地域団体・アーティストの活動支援」を重視します。地域への活動の場提供は、使命4の「地域事業分野の達成」につながり、一方で活動支援は、使命2の「地域での活動家育成」にもつながります。令和6年は、事業総括責任を持つ副館長が館長に昇格し、施設全般そして文化事業、地域事業、施設運営での活動全体を俯瞰し、相互に連携を強化させる体制を強化します。

II. 令和6年(2024年)の施設運営活動

1. 施設運営の基本方針

区民文化センター条例及び横浜市市民利用施設予約システム(以下予約システム)の規約に従い、公平公正な施設運営を継続します。令和5年から改修された新予約システムの各種変更にも事務所対応・お客様対応とも柔軟に対応し、区民利用がスムーズに、かつ利便性が向上されるようにしていきます。「利用要綱」「利用の手引き」や「利用案内」は必要に応じ改編加筆修正を速やかに継続します。使命6にある通り、疫病のほか災害対策の意識も徹底し、引き続き必要な対策・対応を行い、区民・市民の利用が継続していける施設運営を行います。

2. 適正な施設運営管理

●適切な利用料金と利用区分の設定

施設利用料金・利用区分については、別表1のとおり、現行利用料金・利用区分の体系を継続しますが、利用者のニーズを把握しながら、ホールなどのインターバルの時間の有効活用と料金を検討していきます。また現在、ホワイエのみの利用(ロビーコンサート、レセプションに近いイベント利用)の使用料金は明確な定めがなく、需要を見定めながら、区をはじめ各所と協議していきたく考えています。

●優先予約の考え方

施設の優先利用について、改めて市・区との協議を行い、一定の許可基準や年間での利用可能枠などを定め、利用要綱及び利用要綱細則(内規)に定めていきます。場の提供としての支援と一般利用との公平性を考え、詳細を協議していきます。

●利用者ニーズの適正把握

利用人数報告用紙の裏面へのアンケートを継続しながら、利用者が特定されない匿名可の意見箱の設置やWebアンケートの検討、利用者意見交換会のようなものも開催を検討していきます。

3. 活動・体験の場の提供の促進

◎稼働促進策

●諸室の稼働(ご利用予約)状況の広報

「空き室状況」をWebサイト、情報コーナー、練習室ロビーへの掲示を継続し、空き枠の確認、予約の促進を図ります。

●ホール空き日の有効利用

従来からのシリーズ企画「ピアニストの夢」と「カゲレン」は、状況に応じ適宜開催します。ピアニストの夢ではスタインウェイの使用や、新規導入したヤマハグランドピアノCFXの効率的プロモーションにも活用します。ホワイエだけのコンサートや地域施設のイベント、区企画イベントなども積極的に奨励します。

●リハーサル室の積極活用

活動発表の場としてのリハーサル室での稼働促進を改めて検討します。これまで実施してきた「定期利用」は平等性の保たれた規定を再検討するとともに、公募型の「区企画」と合わせて、地域の個人・団体・アーティストが気軽にチャレンジできる機会の提供とサポートを行います。

4. アーティストデータベースの整備

これまで蓄積してきたアーティスト情報や公募による活動団体の情報等をデータベースに集約し、地域の音楽文化振興とアーティストにおける活動の場を提供・支援するためのツールとして、活用したいと考えています。令和5年から様々な当事者からの情報を集約し、登録したアーティスト・団体を外部へ紹介する手段等については、他施設事例ももとに検討の上、可能な範囲からの稼働を進めていく予定です。

5. 令和6年(2024年)年間利用率目標

ホール	80%	リハーサル室	92%	練習室1	91%	練習室2	92%	練習室3	90%
-----	-----	--------	-----	------	-----	------	-----	------	-----



I. 第3期の施設管理活動の基本方針

1. 施設管理活動の基本方針

施設管理活動とは、施設の維持管理と、その基礎となる収益や人事・規則の管理の総合的な意味を持ちます。第3期の施設管理では、使命5・6の達成を中心とします。感染症や災害など不測の事態に対応し、日常管理を徹底することで、SDGsに取り組み「持続可能な施設運営」を行います。指定管理運営の基本となる安定した収益構造を確立させ、各事業分野が積極的に活動を展開するための「組織」「役割分担」そしてその相互連携を踏まえた管理運営を行います。施設の維持管理でも、経年劣化の進む中で、不測の事態を招かないための活動と継続して維持していくための必要な修繕改修を計画的に実行していきます。

2. 施設管理の基礎となる総務管理的部分の方針

第3期で組織体制を一部変更し、新たに選任された「副館長」は、2年目の令和6年(2024年)で館長に昇格します。館長は事業総括責任者としても機能し、文化・地域・施設運営の各事業を総括的に俯瞰し、各事業の連携をさせていきます。また第3期からは施設管理運営サービス向上のため、舞台管理要員を1名増員し、開館時間内は舞台設備・備品等の管理ができる体制を取ります。共同事業体各社からの要員は、青葉区民文化センタースタッフとして、フラットな組織の下、全員が連携協働して施設を管理運営します。

3. 持続可能性を高める施設の維持管理の基本

第3期のビジョンとして掲げた『“ひと”と“まち”の未来へ文化でつなぐステーション』を念頭に、維持管理業務を通じて、本施設を安心・安全・快適に楽しめる場(ステーション)とすることで、利用者・来場者に高いホスピタリティを提供し、幅広い方が訪れる施設を目指します。「安全・安心」と「快適」を提供するために重要なのは、施設全体の状況を常時、的確に把握し、発生した事象に迅速に対応できる体制の構築と、些細なことでもスタッフ間で共有し合える関係性を築くことです。

II. 令和6年(2024年)の施設管理

1. 使命5の持続可能性向上のための施設管理

● 予防保全での安全安心快適な環境提供

予防保全を実現するために、日々使用時の点検(日常点検)と定期的な専門会社による点検(定期点検)を確実に実施し、点検内容を確認・検証することで修繕の必要性を判断します。

「安全・安心」と「快適」を提供するため、施設の状況を常時的確に把握し、発生した事象に迅速に対応できる体制の構築は常に必要です。スタッフ同士が密に連携することで、総合的なマネジメント力を発揮し、維持管理業務を的確・スムーズに行います。

状態監視にて故障を予見する「予知保全」の仕組みを取り入れ、経年劣化による損傷等を最小限に抑えていきます。

● 舞台設備保守・備品管理

ホールという特性上、特にピアノや舞台設備、客席の保守管理が重要です。日常点検とは別に、定期的な専門会社による定期点検も確実に行い、点検内容を確認・検証することで、適切な予防保全を実現します。

ピアノに関しては、各ピアノメーカー専門技術者による保守点検を行い、舞台設備等も専門の舞台スタッフによる定期的かつ専門的な保守点検を行うことで、利用者満足と来場者の安全確保に努めます。第3期2年度目より新規導入するヤマハグランドピアノCFXについては、高水準な質を保つための施策を検討していきます。2期までの管理で蓄積されたノウハウをもとに、設備の状況や施設の汚損度を正確に分析し、最適な維持管理計画を策定することで「安心・安全の確保」と「施設の長寿命化」を実現します。

● 適切な清掃計画による美観維持

日常清掃、定期清掃、特別清掃の適切な組合せにより、こまめな清掃で、美観・環境の維持に努めます。日常清掃では、汚れやシミ等をチェックし、定期清掃でカーペットや床の清掃を行います。日常・定期・特別の組み合わせにより美観及び環境の維持に努めます。

2. 使命6の持続可能性向上のための施設管理

● 横浜市・青葉区との連携・協議による経年劣化対応

青葉区民文化センターは、開業30年を経過し、照明・音響設備や防犯カメラ、空調の経年劣化が著しく、部品等は入手に時間を要し、緊急対応が困難な状況が生じる恐れがあります。予防保全、小破修繕による延命措置と並行し、抜本的な対策として、横浜市・青葉区の保全更新計画と予算措置を連動させた更新改修工事による施設の長寿命化を目指します。

● 小破修繕への考え方

年間修繕費では、前述の抜本的とは別に、日常的に不具合を補修し、劣化対応等を検討していきます。必要な機材の更新には高額となるような場合は新規リース等も視野に入れ対応していきます。

SDGsの観点、幅広い来場者受入の観点からも、ユニバーサルデザイン対応は施設の使命として取り組むべき課題です。サイン等の見直し、段差等でのバリアフリー対応など、来場者が快適に館内を利用できる空間作りを行います。

3. 光熱水費について

光熱水費の急激な高騰に対する事前対策は急務と考えています。第2期の天井工事期間中に行った主要な照明機器のLED化に加え、非常誘導灯など未LED化の箇所もLED化を進め、使用量の軽減策をさらに進めていきます。「必要なところに必要最低限使う」電気使用の節約も並行して見直しつつ、単価上昇に対する対策は、指定管理料の見直しを含めた必須検討事項と考えています。



Ⅲ. 令和6年(2024年)の施設の継続性推進

1. 使命6の不測の事態(新型コロナウイルス感染症の長期化、災害等)を想定した施設運営を継続
不特定多数の方が訪れる施設にとって重要なのは、何よりも安全・安心な環境を保つことです。平時や緊急時の利用ルールの見直しと徹底、必要な備品導入等、利用者が安全安心に施設を利用できるよう、対策に取組みます。
2. 感染症及び緊急時対応
 - 感染症対策
定着しながらも引き続き脅威となりえる新型コロナウイルス以外にも、インフルエンザやノロウイルス、麻疹等の感染症発生による運営への影響発生も考えた対策体制構築を図ります。従来の感染症に対する既存の汚物処理キットの補充を万全にしなが、スタッフが迅速に対応できるように研修を行います。
 - 防災マニュアル等の整備
能登半島地震などの影響も鑑み、現在のマニュアルで想定している被害規模や緊急時の対応方針を見直すことで、より緻密なマニュアルへ改編を進めます。改編にあたっては、共同体各社が独自に策定している地震対応マニュアル等も踏まえて改編します。
防犯体制では青葉台東急スクエアの警備体制との連携が基本ですが、一方で施設として、連絡方法や緊急対応などをまとめた「マニュアル」の整備に取組みます。
 - BCP計画の見直し
大規模地震等を想定したBCPに加え、コロナのような大規模感染症に対応したBCPも整備し、スタッフの要員確保や利用の確保、施設開館の継続など、具体的な事象を想定しながら策定します。

Ⅳ. 収支構造、運営組織

別紙: 組織図・名簿参照

1. 収支構造と継続安定化

- 安定した収入確保: 事業収入と利用料収入の安定化
施設運営の基盤である収益の安定化を重要視します。青葉区民文化センターは「自主事業収入」の比重が大きいため、引き続き券売ルートの開拓、メンバーズ会員の購買意欲向上促進による自主公演収入の安定化、また施設利用率の向上を図り、利用料金収入増を目指します。
- 適正な費用支出
広報物の内製化、省電力化、効率的修繕、事務費の抑制等により支出の適正管理を徹底します。
- 収支見通しと令和6年(2024年)の収支予算
前回提案時に新型コロナの影響鈍化がみられていたことから、提案収支では、コロナ禍による利用率の減少及び制限等の要素は考慮せず計画しています。令和6年(2024年)においては、コロナ禍前の令和元年(2019年)に近い計画を立てています。休館・開館時間制限、人数制限等が発せられた場合は、利用者の安全を最優先し、市及び区と協議のうえ、対応方針を決定します。

2. 運営組織の構造・人材育成

- 組織体制
利用者の安全安心と心地よく快適な利用者サービス、文化芸術の発信、地域を繋ぐ地域事業の充実・拡充ができる体制を目指し、共同事業体各社から各分野におけるプロフェッショナルな人材を配置します。
提案時からやや変更を行い、より充実した事業展開を図るための体制を敷きます。令和6年は前年度に館長と共に事業展開を統括する「副館長」が「館長」に昇格し、豊富な経験により、文化・地域・施設運営の各事業を統括します。
原則第2期のスタッフが継続し、文化事業の後任には施設運営管理責任者が着任し、地域コーディネーターと共に新たな事業展開に臨みます。前述の通り、館長はその経験を活かし、事業全体を並行して統括します。そのほかの業務責任者・担当者も留任します。舞台管理のスタッフは4名が登録し、夜の閉館時間まで舞台スタッフの誰かが出勤し、設備備品や舞台の終業管理を担当できる体制とします。
- 一体感のある運営組織にするための取組み
各々定期的に各種会議体を開催し、それぞれの目的に応じた情報共有、課題の認識・解決を行います。

主要な会議体

会議体	課題内容	頻度	会議体	課題内容	頻度
青葉区定例会議	事業収支報告・情報共有	年4回	マルチスタッフミーティング	課題共有・意見交換	適宜
共同事業体会議	事業収支報告・情報共有	年4回	課題対応ミーティング	課題共有・意見交換・協議	適宜
事務所ミーティング	業務進捗予定・課題協議	年6回	朝礼・昼礼	課題共有・意見交換	毎日

● スタッフ育成と業務知識の習得

利用者対応、予約システム、発券システム、総務広報、金銭管理等の各業務についてマニュアルを整備しており、マニュアルを通じて業務の基本的知識を養います。適宜マニュアルを整備・更新することで、業務レベルの向上を図ります。

主な研修プログラム・・・基本は年1回を原則とし、年度ごとに実施項目は変化させる

接客接遇	接客接遇	クレーム対応	サービス介助	高齢者体験	障がい者対応
法令遵守	人権・LGBT	コンプライアンス	個人情報保護		
安全衛生	防火防災	救急救命	感染症対策	舞台設備基礎	環境保全
外部一般	外部団体講習	他施設交流			

別表2
維持管理年間計画(通年)

	業務	内容	頻度	実施詳細
機械設備	空調設備総点検	定期点検	1回/年	全室空調設備の総点検
	空調設備フィルター保守	定期点検	1回/年	事務所空調機フィルター清掃
舞台設備等	舞台設備保守管理点検	定期点検	3回/年	舞台吊物等メンテナンス
	照明設備保守管理点検	定期点検	2回/年	舞台照明設備メンテナンス
	音響設備保守管理点検	定期点検	1回/年	音響装置メンテナンス
	ITV設備保守管理点検	定期点検	1回/年	映像設備メンテナンス
	ホール客席保守点検	定期点検	1回/年	指定業者により実施
	ピアノ保守等	ピアノ保守管理(ホール) (スタインウェイ2台)	定期点検	各1回/年
ピアノ保守管理(ホール) (ヤマハグランドピアノ1台)		定期点検	1回/年	
ピアノ保守管理(リハーサル室) (ヤマハグランドピアノ1台)		定期点検	1回/年	
ピアノ保守管理(楽屋3) (ヤマハアップライト1台)		定期点検	1回/年	
ピアノ保守管理(練習室2・3) (ヤマハアップライト2台)		定期点検	1回/年	
ピアノ調律(ホール)※1 (スタインウェイ2台)		調律	使用時	納入ピアノメーカーの技術研修を受け、保守管理に精通した技術者による調律 ※保守点検時に調律実施。
ピアノ調律(ホール)※2 (ヤマハグランドピアノ1台)		調律	3回/年	
ピアノ調律(リハーサル室) (ヤマハグランドピアノ1台)		調律	11回/年	
ピアノ調律(楽屋3) (ヤマハアップライトピアノ1台)		調律	5回/年	
ピアノ調律(練習室2,3) (ヤマハアップライトピアノ2台)		調律	5回/年	
清掃等	日常清掃業務	—	毎日	施設内清掃
	定期:床洗浄・ワックス塗布		1回/3ヶ月	
	定期:カーペット洗浄		1回/年	
	定期:窓ガラス(内面)		6回/年	
	特別:状況により		1回/年	汚れ、劣化の状況により実施
環境管理	ホール環境測定(空調・温度)		4回/年	空調・温度環境測定
	ホール環境測定(照度)		2回/年	照度測定
	害虫駆除※3		2回/年	パーカウンター等の害虫駆除
小破修繕		—	適宜	

※1:ホールスタインウェイグランドピアノは、定期保守調律以外に、使用時に調律必須(施設利用者負担)・自主は管理者負担

※2:ホールヤマハグランドピアノは、定期保守調律に加えて、年3回は調律を管理者負担で実施。使用状況により不定期に実施する場合もある。(なお原則として、施設利用者の使用時の負担なし・調律希望の場合は有料)

※3:環境管理中の害虫駆除は、定期清掃時パーカウンター内を年1回実施。必要に応じて、ホール内、楽屋給湯室等を1回追加する場合がある。

※ビル法定点検・測定及び防火対象物点検等はビル側にて実施。